

立命館大学理工学部	正 員	春名 攻
五洋建設(株)	正 員	日下部 裕
立命館大学大学院	学生員	正岡 崇
立命館大学大学院	学生員	○長谷川 匠一

970

観シミュレーションを実施してデザイン案を作成し、このデザイン案に対する評価と分析を行なうこととした。

ここでの分析を要約すると次のようである。すなわち、上位レベルで設定したデザイン目標や、開発プロジェクトに対する評価主体の内容などを考慮しつつ、道路景観構成要素の組み合わせパターンを用いてデザイン案を作成するとともに、このデザイン案に対する評価主体の反応（意向）調査を行なった。ここでは、この調査結果を実験実施における変動データと考え、要因効果に関する分散分析を行なった。そして、この分析結果にもとづき、デザイン目標に対して最も有効なデザイン案を選択することによって、開発プロジェクトに対する目的合理性が高いデザイン案として策定することとした。

3. 実証的検討

本研究で開発した方法論を、滋賀県湖西地域幹線道路である国道161号線の景観整備の問題に適用し、実証的検討を行なうことによって、その有効性を検討することとした。

まず、具体的検討対象となる景観としては市街地景観を選定した。そして、上述のようなアンケート調査の結果に対して一次分析と数量化I類分析を行なった。さらに、結果及び一対比較法の手法を用いた分析を行なった。この分析の結果、建物、看板、電線・電柱、歩道、等々が外的基準に大きく影響を与えていることがわかった。このため、これらの要素を景観操作要素として扱い、直交法を適用して操作要素の組み合わせを決定し、デザイン案を作成した。ここで、各操作要素及びその内容を表-1にまとめて示した。そして、実験計画法の内容として設定された16パターンのデザイン案に対する総合的な評価を方法論の開発というねらいから、ヒアリングによって調査した。ここでは、調査対象としては、都市・地域計画を研究している男女学生112人に対して行なった。その結果は表-2に示すようになった。

さて、以上の分析により、表-3に示す操作要因の各水準によるデザイン案が、目的合理性の高いデザイン案であると判断されたが、ここでは、図-2にその写真を示した。

表-1 操作要素とその内容

操作要素	変更内容
A. 建物	セツパツク（両側、右側、左側、しない）
B. 歩道	美装化（する、しない）
C. 看板	ある、ない
D. 電柱・電線	ある、ない

表-2 分析結果（総合評価）

A-セツパツク		B-歩道		C-看板		D-電柱	
しない	2.4665	しない	2.8392	ない	2.8203	ない	2.6607
右側	3.2678	する	2.9296	ある	2.9386	ある	3.0982
左側	2.4486	—	—	—	—	—	—
両側	3.3348	—	—	—	—	—	—

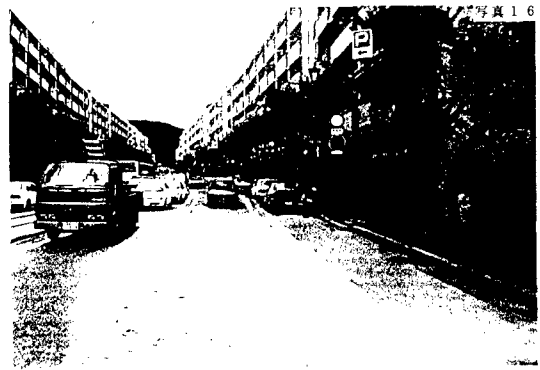


図-2 最適デザイン案（技術支援：島精機製作所）

表-3 最適な組み合わせ

建物のセツパツク	：両側
歩道の美装化	：する
看板の有無	：なし
電柱の有無	：なし

4. おわりに

本研究に提案した方法によって、道路整備計画における道路景観整備計画に関する問題を先取的に検討することが可能となった。そして、道路景観整備の対象や評価の視点を絞り込むことにより、景観評価に影響与える道路景観構成要素の整理や、CG等によるシミュレーション案作成のための有効な操作要素明らかにすることができた。

【参考文献】

- 1)建設省滋賀国道工事事務所/(財)道路環境研究所：湖西地域沿道景観整備計画報告書，1994
- 2)(財)道路環境研究所・道路景観委員会：道路景観整備マニュアル(案)，大成出版社，1993